

肺結節病変におけるトレーサ集積分布の不均一性に基づいた 新たな PET/CT 診断指標の検討

●はじめに

PET/CT 検査は細胞の活動状態を画像で見ることができる検査であり、ブドウ糖の取り込みからがんを診断する検査などに用いられています。検査結果は主に薬剤の取り込みの強弱を利用していますが、現在の方法は装置の状況や病状の影響を受けやすく安定性に欠けるといわれています。われわれは今回の研究で、再現性が高い安定した定量性を示す指標を見つけ出したと考えています。このために、従来の薬剤集積の強度による診断に加え、薬剤集積の不均一性を評価する方法を追加して診断することで、肺結節病変の診断がどれだけ正確になるかを研究しようと考えています。

●対象

本研究は平成 22 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日の間にかん研究会有明病院にて PET/CT 検査を実施された方 100 例を対象に研究させていただきます。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

●研究内容

すでに実施された PET/CT 検査の画像データから肺結節病変に取り込まれた薬剤量と薬剤の集積分布を用いて新たな指標を計算します。さらに、従来から用いられている指標と比較して、より安定した指標を決定したいと考えています。この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担は生じません。

●患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

対象者となることを希望されない方および個人情報の開示を請求される方は、下記連絡先までご連絡下さい。

●研究期間

研究を行う期間は平成 28 年 3 月 31 日まで。

●医学上の貢献

この研究により代謝診断の新たな評価指標が確立されれば、より正確な肺結節病変の鑑別診断を行うことができるようになると考えています。また従来通りの PET/CT 検査の範囲内で、付加情報を獲得できます。この結果、より適切な治療法を選択して無駄な治療を回避できるようになり、ひいては患者さんの御負担を少なくすることにつながると考えています。

[研究機関]

九州大学医学研究院保健学部門	・教授	・佐々木雅之
医学系学府保健学専攻	・大学院生	・三輪建太 (がん研究会有明病院・核医学部)
医学系学府保健学専攻	・大学院生	・谷口隆文
がん研究会有明病院 核医学部	・部長	・小泉満

連絡先：

九州大学医学研究院保健学部門 佐々木雅之
〒812-8582 福岡市東区馬出 3 丁目 1-1
TEL (092) 642-6746
E-mail: msasaki@hs.med.kyushu-u.ac.jp